

2019 年 9 月 20 日

「平成30年度トップスポーツ組織の地域振興活動に関する調査」結果を発表

(公財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団(YMFS)はトップスポーツに関する平成 30 年度(2018 年)の調査研究結果をまとめた報告書をこの度、当財団ウェブサイトにて公開しました。

<https://www.ymfs.jp/project/culture/survey/012/>

一般社団法人日本トップリーグ連携機構のご協力の下、同機構に加盟しているバレーボール、ハンドボール、ラグビーなど全 13 リーグ(一部種目は男女を別カウント)、91 のクラブ・チームから得られた地域活動に関する調査結果を報告書にまとめています。

■報告書タイトル

「平成30年度トップスポーツ組織の地域振興活動に関する調査」 —トップスポーツによる地域活性化とスポーツ振興を目指して—

■報告書の概要(全7章で構成)

【第1章】 トップスポーツ組織の事業概況まとめ

各組織のプロフィールや事業形態(企業系・独立/プロ系・大学系)、設立年などを紹介。

【第2章】 トップスポーツ組織のホームタウンに関するまとめ

各組織のホームタウン(本拠地)の有無、ホームタウンの捉え方について紹介。

【第3章】 トップスポーツ組織の地域活動の捉え方や課題に関するまとめ

各組織が取組む“地域への支援”、“地域からの支援”などに対する意識や課題認識などを紹介。

【第4章】 トップスポーツ組織の地域における具体的活動状況まとめ

各組織が取組む様々な地域活動(スクール、学校訪問、社会貢献など)の実施状況を紹介。

【第5章】 トップスポーツ組織が重要視するステークホルダーまとめ

各組織の重視するステークホルダー上位3位までの分析結果を紹介。

【第6章】 トップスポーツ組織のマスコットキャラクター・商標・グッズに関するまとめ

各組織が保有するイメージキャラクターや商標を活用したPR活動状況を紹介。

【第7章】 トップスポーツ組織の地域活動におけるベンチマークまとめ

各組織が地域活動時のベンチマークとするリーグやクラブ・チームを紹介。

【調査責任者コメント】 岡本純也 (一橋大学大学院 経営管理研究科 准教授)

本調査のテーマは「“地域社会”と“トップスポーツ”の未来像の探求」にあるが、地域への関わり方はプロスポーツとアマチュアスポーツで大きく異なる。しかしながら地域の側の視点に立つとプロ・アマ問わず現在のスポーツ組織には地域経済活性化や街づくり、健康増進、子どもたちへの教育に関わる「資源」となることが期待されている。地域におけるスポーツの振興とそれらの活動と関わる地域社会の振興に本研究の成果を大いに活用していただければ幸いである。

この件に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。(担当:尾鍋)

www.ymfs.jp